

平成22年度

第25回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会 記録集



社団法人 北方領土復帰期成同盟

も く じ

1	主催者挨拶	
	社団法人 北方領土復帰期成同盟会長 堀 達 也 ……	2
2	激励メッセージ……………	3
	外務大臣 前 原 誠 司	
	北海道知事 高 橋 はるみ	
	北海道教育委員会教育長 高 橋 教 一	
3	第25回“北方領土を考える”高校生弁論大会実施要綱…………	6
4	第25回“北方領土を考える”高校生弁論大会プログラム……	8
5	大会発表者……………	9
6	大会審査員……………	9
7	大会入賞者……………	10
8	大会参加高等学校……………	10
9	歴代応募実績校地区別一覧……………	11
10	歴代応募状況……………	12
11	第25回大会までの弁論大会記録……………	14
12	第25回大会までの歴代審査員一覧……………	18
13	弁論記録	
	1 審査講評……………	23
	審査員長・北海道高等学校文化連盟弁論専門部部長 (北海道札幌旭丘高等学校校長) 宮 浦 俊 明	
	2 大会入賞者弁論内容……………	24
14	第25回高校生弁論大会スナップ……………	35
15	総理表敬訪問の記録……………	39
16	平成23年度 第26回 ～北方領土を考える～ 高校生弁論大会【募集概要】 ……	45

1 主催者挨拶

社団法人 北方領土復帰期成同盟
会 長 堀 達 也



第25回北方領土を考える高校生弁論大会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本日は、お忙しいところ、多くの方々にご来場をいただき、厚くお礼申し上げます。

本日の主役である高校生の皆さん、また、生徒指導に当たっておられる先生には、ご参加をいただき、心から敬意と感謝を申し上げます。

この弁論大会は北方領土返還要求の国民世論の喚起と高揚を目的に、2月7日の「北方領土の日」を中心とする特別啓発事業の一環として開催するものであります。

昭和62年に始まり数えて25回目を迎え、これまで延べ356校、2,217人の応募をいただき、高校生の皆さんの柔軟な考えと、豊かな感性をもって、様々な主張、意見や提言の発表がなされました。

高校生の皆さんには、北方領土問題に関心をもっていていただき、本日の弁論大会に留まらず北方四島ビザなし交流や署名活動への参加、高校生による北方領土授業、出前講座や自主研究の実施など、自らの経験、元島民の話を通じ感じたことを基に、自分ができることを考え、それぞれの立場で北方領土問題に関わっていただき、今後の返還要求運動を支える大きな力となることを心から期待しております。

さて、昨年11月にはロシアのメドベージェフ大統領が北方四島の国後島を訪問し、その後も領土問題を無視する行動、発言が続いておりますが、この北方領土問題を平和的に解決するためには、ロシアとの外交交渉を粘り強く継続していく以外には方法ありません。

政府にはより強力な外交交渉を加速するよう強く期待するとともに、皆様には北方領土問題の解決に向けて外交交渉を支え後押しする、一致した力強いご支援を心よりお願いする次第です。

発表者の皆さん、本日は7分間という限られた時間の中で自らの思いを込め、自分自身を表現していただきたいと思います。どうぞ頑張って下さい。

また、会場の皆様には、高校生の熱意と努力に温かいご声援を頂きますよう、宜しくお願いいたします。

結びに、ご来場の皆様、そして、この大会開催に、ご支援、ご協力をいただきました、外務省、北海道高等学校文化連盟弁論専門部を始めとして、関係団体、参加高等学校の皆さんに、心からお礼申し上げます。

2 激励メッセージ



外務大臣 前 原 誠 司

「第25回“北方領土を考える”高校生弁論大会」の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

はじめに、本日の弁論大会に参加されている高校生の皆さん、日頃から御指導に当たっておられる先生方、そして関係者の皆さんに対し、心から敬意を表したいと思います。

私は現在、外務大臣として北方領土問題の解決に取り組んでおりますが、この問題の解決には国民世論の理解と支持が欠かせません。それは、国民一人一人、特に、若い世代の皆さんが、北方領土問題に対する認識を深め、その解決の重要性を広く訴えることが、国民世論を盛り上げ、平和条約締結に向けた政府による対ロシア外交を強く後押しするものだからです。

昨年11月、ロシアのメドヴェージェフ大統領が国後島を訪問しましたが、私は、ラヴロフ外務大臣に対し、真の相互信頼に基づく関係は、北方領土問題を解決して平和条約を締結することなしには構築し得ないことを伝えました。その上で、あらゆる分野で二国間関係を発展させていくことを確認しました。

また、12月4日には根室を訪問し、上空から北方四島を視察するとともに、元島民など関係者のかたがたと意見交換をしました。関係者の皆様の切実な思いをお聞きし、これ以上、この問題の解決を遅らせてはならないとの思いを改めて強くしました。

今後とも、北方領土問題を最終的に解決して平和条約を締結すべく、強い意思をもってロシアとの交渉を行ってまいります。領土返還の実現に向け、日本の将来を担う皆さんから力強い御支援と御協力を頂きますようお願いいたします。

最後に、本日御出場の皆さんの御健闘をお祈りして、激励の挨拶とさせていただきます。



北海道知事 高 橋 はるみ

第25回「“北方領土を考える”高校生弁論大会」が、多くの高校生の皆さんの参加のもと、開催されますことを心からお喜び申し上げます。

我が国固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の北方四島が、第二次世界大戦終戦直後に、ソ連、現在のロシアに一方的に占拠され、当時四島に住んでいた島民約17,000人の方々が強制的に島を追われてから、すでに65年もの長い年月が経過しています。北方領土を返して欲しいという、元島民はもとより、日本国民全体の痛切な願いにもかかわらず、依然として北方領土はロシアに不法に占拠されています。

この間、北方四島を追われた元島民の半数以上の方が、望郷の念を抱きながら他界され、存命の方々におかれても平均年齢が77歳を超えています。一日も早いこの問題の解決のため、政府による強力な外交交渉の展開を願わずにられません。

昨年を振り返りますと、7月の択捉島での大規模な軍事演習、9月の「第二次世界大戦終了の日(9月2日)」の制定、そして11月には、メドヴェージェフ大統領がロシアの最高首脳として初めて国後島を訪問するなど、我が国の領土返還運動を牽制するような様々な動きがロシア側で起こっています。

このような動きは、今後の平和条約締結交渉への影響はもとより、長年にわたり北方領土返還を切に願ってきた道民の感情を著しく傷つけるものであり、非常に遺憾に感じているところです。

北方領土問題は、国家の主権と尊厳に関わる外交問題です。

政府においては、このような北方領土問題を取り巻く環境の大きな変化をふまえながら、首脳間をはじめ、あらゆるレベルでの対話を深め、北方領土問題解決に向けた外交交渉を加速するよう強く期待しています。

しかし、政府が力強い外交交渉を行うためには、何よりもここにお集まりの皆さんをはじめ国民一人ひとりが、北方領土問題への関心と認識を深め、国民全体の世論を大きく結集させていく必要があります。

私自身も、元島民の皆様や、返還運動関係者の皆様の思いをしっかり受け止め、引き続き政府の外交交渉を支え、後押しする国民世論の集結のための取組を粘り強く推進していく決意であります。

この取組の中で、特に大切なことは、次の時代を担う若い皆さん方に、この問題について正しく理解してもらうとともに、関心を持っていただくことだと考えています。

このような中、高校生による「北方領土を考える弁論大会」が開催されることは、大変意義深いことであり、本日発表される皆さんには、この問題に対して日頃考えている意見や主張を大いに述べていただきたいと思います。

終わりに、この大会の開催にあたり、ご尽力いただいた大会関係者及び教育関係者の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、本日発表される高校生の皆さんのご検討を心からお祈り申し上げます。



北海道教育委員会教育長 高橋 教 一

“北方領土を考える” 高校生弁論大会に出場される生徒の皆さん、出場おめでとうございます。

昭和62年2月に第1回が開催された本大会は、今年で25回目を数えますが、この間、本道の高校生の発表が、北方領土の早期返還を強く願う元島民の方々をはじめとする地域の皆様、道民、そして国民の方々に、大きな勇気と希望を与えてきました。

厳しい事前審査を経て選考され、本大会に参加される皆さんには、日ごろの学習の成果を十分に発揮し、堂々と意見を述べていただくことを期待しております。

さて、北方領土問題については、長年にわたり、日本、ロシア両国の首脳が継続的に対話を重ねる中、平成4年からは、日本国民と北方四島在住のロシア人が「ビザなし」で渡航できる枠組みでの相互の交流などが進められてきたところであり、最近では、本道の中学生や高校生が、北方領土を訪問し、四島在住のロシア人中学生や高校生と領土問題について意見交換をするなど、次代を担う若い世代同士の交流も定期的に行われてきております。

昨年の8月には、北方四島交流訪問事業として31名の中学生・高校生が国後島を訪れ、ホームビジットや視察などを通して島における生活についての理解を深めるとともに、絵画やスポーツ、意見交換会などの交流活動を通して相互の理解と友好を深め合いました。

しかし、依然として日本とロシアの間には北方領土問題が未解決のまま残されており、昨年の11月には、ロシアのメドведеフ大統領が北方領土を訪問するなど、残念な出来事も起きております。

こうした中、本大会の開催は、若者をはじめ、国民一人ひとりが北方領土問題に対する関心と認識を深め、返還要求運動をより一層広げていく上で大変意義深いものであり、領土問題解決のための環境づくりに大きく寄与するものと考えております。

昨年の大会においては、北方領土資料館を兼ねたレストランをつくり、「食」を通して「北方領土問題」やロシアへの関心を喚起しようとするアイデアや、親から子へ、子から孫へといった「タテのつながり」に、同世代間の「ヨコのつながり」を加えることにより返還の意識を高める提言など、素晴らしい内容の発表がたくさんありました。

今回、本大会に出場する皆さんも、発表に当たり、多くの資料を調べたり、様々な方々からお話を伺ったりするなどして、北方領土問題の歴史的背景や、国家主権及び領土に関する国際法の意義などについて理解を深めるとともに、その返還要求運動の意義などについて学ばれたことと思います。

皆さんの発表が、国民の皆様一人ひとりの心に届き、領土返還につながる財産として、大きな役割を果たすことを期待しております。

結びに、皆さんの若さと熱意あふれる素晴らしい発表を期待いたしますとともに、それぞれの発表がより多くの人々の共感を得て、北方領土返還運動の輪が一層広がり、一日も早く返還が実現するよう、心より祈念し、激励の言葉といたします。

3 第25回 “北方領土を考える” 高校生弁論大会開催要綱

1 趣 旨

我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の北方四島が、当時のソ連に不法に占拠されてから、既に65年を迎える。

政府においては、ロシア政府と粘り強い外交交渉を積み重ねてきたが、未だ北方領土問題の解決には至っていない。

そのため次代を担う若者たちに北方領土問題や返還要求運動に関心をもってもらい、国民世論のより一層の高揚を図るため全道の高校生を対象とする弁論大会を開催する。

2 発表大会開催日時

平成23年 1 月22日(土)12：30より

3 発表大会会場

札幌市男女共同参画センターホール

札幌市北区北 8 条西 3 丁目 札幌エルプラザ 3 階 (011-728-1222)

4 主 催

社団法人 北方領土復帰期成同盟

5 後 援

外務省 内閣府北方対策本部

北海道 北海道教育委員会 札幌市 札幌市教育委員会

北海道高等学校長協会 北海道高等学校文化連盟

独立行政法人北方領土問題対策協会

社団法人千島歯舞諸島居住者連盟

6 応募要領

(1) 応募資格

・道内の高等学校に在学する生徒とします。

但し、過去の本大会において最優秀賞及び優秀賞の受賞者を除きます。

(2) 応募内容

・主題は、「北方領土について考えること」とします。

・演題は、自由とします。応募者各自が設定してください。

・内容は、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島の北方領土問題について高校生としての考えをまとめて、記述してください。

(3) 応募原稿

・応募は一人 1 編、2,000字程度とし、発表大会において7分以内で発表できる文章としてください。

・原稿はA 4 判としてください。パソコン等での原稿作成も可です。

・応募の際は、別紙【応募票】に

【1. 氏名（ふりがな） 2. 学年 3. 学校名 4. 住所
5. 郵便番号 6. 電話番号（連絡先）】を記入し添付してください。

<留意点>

応募原稿はコピーをして審査しますので、黒色で明瞭に記入してください。

(4) 応募期限

平成22年11月5日(金) ※当日消印有効

(5) 応募先 〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5

明治安田生命札幌北一条東ビル7階
社団法人北方領土復帰期成同盟

弁論担当 石部宛

7 審査

(1) 事前審査

・応募原稿による事前審査をし、大会発表者15名程度を選考します。

事前審査の結果は12月中旬に本人及び学校長に通知します。

(2) 大会審査

・発表者に選ばれた生徒は、発表大会において7分以内で発表をし、委嘱した審査員による審査の上、入賞者を決定します。

8 表彰

(1) 上位5名を入賞とし、最優秀賞（外務大臣賞）、優秀賞（北海道知事賞）各1名及び優良賞（北方領土復帰期成同盟会長賞）3名を決定します。

(2) 入賞者に賞状及びトロフィー、大会発表者全員に記念品を贈ります。

なお、応募者全員に記念品を贈ります。

(3) 最優秀者、優秀者には副賞として「総理大臣表敬訪問」を実施します。

9 その他

・発表大会出場者及び同伴教員の参加旅費は主催者が負担します。

・上位入賞者の氏名、学年、学校名を大会記録集等に公表しますことをご承知ください。

・不明な点等がありましたら、下記にお問い合わせください。

社団法人 北方領土復帰期成同盟

弁論担当 石 部

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目2-5

明治安田生命札幌北一条東ビル7階

T E L 011-205-6500

F A X 011-205-6501

4 第25回“北方領土を考える”高校生弁論大会プログラム

開会式 (12:30開会)

1. 主催者あいさつ 北方領土復帰期成同盟会長 堀 達也
2. 感謝状進呈 長年応募いただいた学校に感謝状を贈ります。
外務大臣感謝状
武修館高等学校 様
(社)北方領土復帰期成同盟会長感謝状
北海高等学校 様
函館白百合学園高等学校 様

第Ⅰ部 高校生弁論大会

主題～北方領土について考えること～

- 審査員紹介
- 基準弁論
- 弁論発表 14校 代表14名（発表は7分以内）

第Ⅱ部 弦楽四重奏ミニコンサート

- 出演 アンサンブル・シオン
◆メンバー
第1バイオリン 有路 美咲
第2バイオリン 林 ひかる
ヴィオラ 田中 知子
チェロ 相内佐津子

第Ⅲ部 表彰式

- 審査講評
- 成績発表
- 表彰 最優秀賞 1名／外務大臣賞
優秀賞 1名／北海道知事賞
優良賞 3名／北方領土復帰期成同盟会長賞
- 受賞者5名にはトロフィーを贈呈します。
- 最優秀賞及び優秀賞受賞者には副賞として『総理大臣表敬訪問』を贈呈します。
- 発表者全員に記念品を贈呈します。

閉会 (16:15予定)

5 弁論発表者（発表順）

○基準弁論発表者 渋谷 侑希 武修館高等学校 1年

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 羽山由衣菜 北海道札幌旭丘高等学校 2年 | 8 渡部 綾菜 北海道鹿追高等学校 2年 |
| 2 中村いのり 北海道登別明日中等教育学校 5回生 | 9 尾張 棕 立命館慶祥高等学校 2年 |
| 3 大建 千浩 武修館高等学校 1年 | 10 濱田 康太 北海高等学校 1年 |
| 4 畠山 美保 北海学園札幌高等学校 2年 | 11 清原 優威 北海道中標津農業高等学校 1年 |
| 5 中谷 麻瑚 北海道札幌月寒高等学校 2年 | 12 玉井 沙英 旭川大学高等学校 1年 |
| 6 松崎あすか 北海道根室西高等学校 2年 | 13 室井 麻佑 北海道中標津高等学校 1年 |
| 7 金丸安里紗 北海道釧路明輝高等学校 2年 | 14 木村 智美 北海道根室高等学校 2年 |

6 大会審査員（順不同）

岩 下 明 裕 北海道大学スラブ研究センター教授

越 前 雅 裕 北海道総務部北方領土対策本部長

佐 藤 和 子 札幌市女性団体連絡協議会会長

宮 浦 俊 明 北海道高等学校文化連盟弁論専門部長（北海道札幌旭丘高等学校校長）

村 田 政 孝 北海道教育庁教育指導監

山 村 嘉 宏 外務省欧州局ロシア交流室長兼ロシア課企画官

吉 岡 孝 修 北海道新聞社編集局次長兼報道本部長

7 大会入賞者

最優秀賞	^{まつ} 松 ^{ざき} 崎 あすか 北海道根室西高等学校 2 年	外務大臣賞・楯 北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィー
優 秀 賞	^{なか} 中 ^{むら} 村 いのり 北海道登別明日中等教育学校 5 回生	北海道知事賞・楯 北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィー
優 良 賞	^{わた} 渡 ^べ 部 ^{あや} 綾 ^な 菜 北海道鹿追高等学校 2 年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィー
〃	^お 尾 ^{わり} 張 ^{りょう} 棕 立命館慶祥高等学校 2 年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィー
〃	^{むろ} 室 ^い 井 ^ま 麻 ^ゆ 佑 北海道中標津高等学校 1 年	北方領土復帰期成同盟会長賞 トロフィー

8 第25回大会参加高等学校（五十音順）

	参 加 校	参加生徒数
1	北海高等学校	1
2	北海道鹿追高等学校	3
3	北海道根室高等学校	3
4	武修館高等学校	36
5	北海道中標津高等学校	1
6	北海道釧路明輝高等学校	1
7	北海学園札幌高等学校	1
8	北海道札幌旭丘高等学校	1
9	北海道札幌月寒高等学校	1
10	旭川大学高等学校	1
11	北海道登別明日中等教育学校	1
12	立命館慶祥高等学校	1
13	函館白百合学園高等学校	1
14	北海道中標津農業高等学校	31
15	北海道根室西高等学校	1

計 15校 84名

9 歴代応募実績校地区別一覧

地区	学校数	応募実績校 () 内は応募回数		
札幌	17	北海 (25) 有朋 (16) 札幌龍谷学園 (16) 北海学園札幌 (16) 札幌東豊 (5) 札幌旭丘 (9)	北星学園女子 (2) 札幌月寒 (6) 札幌平岸 (2) 札幌藻岩 (5) 札幌聖心女子学院 (3) 札幌西 (2)	北嶺 (2) 札幌星園 (1) 札幌北 (1) 札幌東陵 (1) 札幌藤女子 (1)
石狩	4	立命館慶祥 (12) 野幌 (1)	石狩南 (1)	大麻 (7)
渡島	3	函館白百合学園 (10)	函館大付属柏稜 (1)	函館ラサール (1)
檜山	1	江差 (1)		
後志	3	小樽潮陵 (2)	ニセコ (1)	蘭越 (1)
空知	2	岩見沢緑稜 (1)	幌加内 (1)	
上川	8	旭川大学 (8) 旭川藤女子 (5) 名寄農業 (3)	名寄光凌 (1) 旭川東 (1) 下川商業 (2)	旭川北 (1) 旭川龍谷 (1)
留萌	1	天売 (1)		
宗谷	1	礼文 (2)		
網走	3	網走 (13)	北見藤女子 (2)	北見商業 (9)
胆振	3	室蘭工業 (2)	厚真 (1)	登別明日中等教育 (4)
日高	2	えりも (1)	様似 (1)	
十勝	8	白樺学園 (11) 帯広南商業 (4) 帯広三条 (4)	帯広柏葉 (1) 帯広農業 (1) 帯広工業 (1)	鹿追 (2) 浦幌 (1)
釧路	12	武修館 (21) 釧路工業 (11) 厚岸潮見 (5) 釧路湖陵 (4) 釧路明輝 (4)	釧路東 (2) 釧路北陽 (2) 釧路江南 (1) 釧路商業 (1) 釧路北を含む 標茶 (2)	阿寒 (4) 弟子屈 (2)
根室	7	根室 (18) 根室西 (14) 別海 (9)	中標津 (3) 中標津農業 (7) 標津 (2)	羅臼 (8)

計 75校

10 歴代応募状況

応募校名	応募		受賞歴			61	62	63	元年	2	3	4	5	6	7
	回数	人数	最優秀	優秀	優良	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
1 北海	25	29	3	1	4	5	1		1	1	1	1	1	1	1
2 武修館	21	542	1	2	7			1			1	3	2	5	1
3 有朋	16	39	3	4	4							7	6	4	3
4 根室	18	44	4	2	6	1			1	1					3
5 札幌龍谷学園	16	18	1		2	1	1	1							1
6 北海学園札幌	16	18	1	1	5								1	1	1
7 網走	13	157	1		2	1	3	14	23	45	20	14	13	8	5
8 白樺学園	11	17			6							2	1	1	2
9 根室西	14	16			1										
10 立命館慶祥	12	25		1	4										
11 釧路工業	11	87										1		1	
12 別海	9	56		1	2				2	12	8	7			
13 北見商業	9	81			1						20	6	26	17	8
14 羅臼	8	14	1	1	1		2							1	2
15 函館白百合学園	10	16	1	2	1							5			
16 大麻	7	9	1	1	2	1			2	1	1	1	2	1	
17 札幌旭丘	9	9		1											
18 旭川大学	8	10	3		2										
19 厚岸潮見	5	8			1		3		2		1		1		
20 札幌東豊	5	6													1
21 釧路湖陵	4	10	1		2		4	3	2						
22 帯広南商業	4	743		1	3	28	240	223	252						
23 中標津農業	7	78		1											
24 札幌藻岩	5	5			1								1	1	
25 阿寒	4	5											1		
26 旭川藤女子	5	9	1		1										
27 釧路明輝(釧路北)	4	59					4	13	41						
28 名寄農業	3	8										1	2	5	
29 札幌聖心女子学院	3	3						1	1	1					
30 札幌月寒	6	13			1									1	
31 釧路東	2	7	1		1		2					5			
32 釧路北陽	2	2		1	1										1
33 札文	2	2		1		1	1								
34 帯広三条	4	4		2											
35 室蘭工業	2	3			1					1	2				
36 標津	2	2			1				1						1
37 北星学園女子	2	2			1										
38 北嶺	2	2			1										
39 下川商業	2	4													
40 小樽潮陵	2	2									1	1			
41 北見藤女子	2	2												1	
42 札幌平岸	2	2													
43 弟子屈	2	2					1						1		
44 標茶	2	2					1								
45 江差	1	3								3					
46 函館大付属柏稜	1	3				3									
47 帯広柏葉	1	2													2
48 登別明日中等教育学校	4	5													
49 野幌	1	1		1					1						
50 札幌星園	1	1			1	1									
51 厚真	1	1			1				1						
52 浦幌	1	1			1								1		
53 帯広工業	1	1				1									
54 札幌藤女子	1	1				1									
55 旭川北	1	1													
56 旭川東	1	1													
57 石狩南	1	1								1					
58 岩見沢緑稜	1	1													
59 えりも	1	1							1						
60 帯広農業	1	1													
61 釧路江南	1	1									1				
62 釧路商業	1	1								1					
63 札幌北	1	1					1								
64 札幌東陵	1	1													
65 様似	1	1										1			
66 天売	1	1													
67 名寄光凌	1	1							1						
68 ニセコ	1	1								1					
69 蘭越	1	1													1
70 札幌西	2	3													
71 中標津	3	3													
72 幌加内	1	1													
73 旭川龍谷	1	1													
74 函館ラ・サール	1	1													
75 鹿追	2	4			1										
集 計			応募校延べ数	356		11	13	8	15	11	11	13	14	14	15
			参加者延べ数	2219		44	264	257	332	68	61	50	59	48	33

[illegible]

11 第25回大会までの弁論大会記録

年度	期日	場所	応募数	受賞者	アトラクション
昭61 (第1回)	2月14日(土) 14:30	共済ビル 6Fホール	11 高 校 44名	最優秀賞 渡 辺 美都里 (網走高等学校3年) 優 秀 賞 高 木 和 彦 (礼文高等学校1年) 努 力 賞 丸 田 栄 子 (札幌女子高等学校3年) 城 石 謹 爾 (札幌星園高等学校3年) 安 岡 れいこ (帯広南商業高等学校3年)	歌と踊り (60分) 〈出演〉 手風琴 ポップス 泉 玲子 日本舞踊
昭62 (第2回)	2月13日 (土)13:30	札幌市婦人 文化センター2Fホール	13 高 校 264名	最優秀賞 木 暮 美智子 (札幌女子高等学校3年) 優 秀 賞 嶋 久美子 (羅臼高等学校2年) 努 力 賞 野 上 幸 代 (釧路東高等学校2年) 小 山 まい子 (釧路湖陵高等学校1年) 吉 川 千恵子 (帯広南商業高等学校3年)	内藤やす子 ワンマンショー (60分) 曲目／ 弟よ 想い出ボロボロ お人よし ほか
昭63 (第3回)	2月18日(土) 13:30	札幌アス ティ45 4階ホール	8 高 校 257名	最優秀賞 勝 山 麻衣子 (釧路湖陵高等学校2年) 優 秀 賞 伊 藤 まゆみ (帯広南商業高等学校3年) 努 力 賞 伊 藤 摩里子 (札幌女子高等学校1年) 澤 野 直 人 (網走高等学校2年) 三 浦 淑 美 (帯広南商業高等学校3年)	歌謡ショー 歌手／ 北原ミレイ 舟田 淳子 曲目／ 漁火・涙の海峡・石 狩挽歌・納沙布崎・ ゆれる島影・2001夜 物語 ほか
平 1 (第4回)	2月17日(土) 13:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 332名	最優秀賞 佐 野 健 一 (根室高等学校1年) 優 秀 賞 和 田 貞 穂 (野幌高等学校3年) 努 力 賞 浜 木 珠 恵 (釧路湖陵高等学校2年) 高 桑 暁 子 (標津高等学校2年) 赤 塚 章 子 (厚真高等学校1年)	民謡と踊り 民謡 佐々木基晴 曲目 江差追分 道南口説 松前謙了節ほか 踊り 山本 英子 藤英会社中 演目 早く帰ってこい よ北方領土・お こさ節 ほか
平 2 (第5回)	2月16日(土) 13:30	札幌 アスティ45 4階ホール	11 高 校 68名	最優秀賞 河 村 美 穂 (大麻高等学校1年) 優 秀 賞 上 野 公 人 (根室高等学校1年) 努 力 賞 松 原 真 人 (別海高等学校2年) 桑 原 貴 信 (室蘭工業高等学校2年) 太 田 稔 (網走高等学校2年)	歌謡ショー 歌手／薫ジュン・ 島 純子 曲目／ 恋のはれるや 女性～WOMAN 夕月・天使の誘惑 ああ北慕情・江差恋 歌 ほか
平 3 (第6回)	2月15日(土) 13:30	札幌 アスティ45 4階ホール	11 高 校 61名	最優秀賞 西 山 真 道 (釧路東高等学校2年) 優 秀 賞 上 出 真由美 (別海高等学校3年) 努 力 賞 菊 地 明 子 (厚岸潮見高等学校3年) 井 上 卓 (北海高等学校2年) 藤 原 瑞 奈 (大麻高等学校1年)	歌謡ショー 歌手／狩 人 小池果世子 北原ひろし 曲目／ あずさ2号・コスモ ス街道・日本海芭蕉 恋歌・哀しみ紀行北 方領土(きたのふる さと)・函館夜景 ほか

年度	期日	場所	応募数	受賞者	アトラクション
平4 (第7回)	2月13日(土) 13:00	札幌 アスティ45 4階ホール	13 高 校 50名	最優秀賞 川 原 佐知子 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 優 秀 賞 篠 原 朱輝子 (大麻高等学校1年) 努 力 賞 二 木 睦 子 (別海高等学校3年) 佐々木 浩 志 (有朋高等学校単位制課程1年) 大 淵 聖 子 (白樺学園高等学校1年)	歌謡ショー 歌手／宮路オサム 小池果世子 曲目／ なみだの操・夫婦 鏡・女房・一世一 代・雪情話・旅恋慕 恋唄綴 ほか
平5 (第8回)	2月19日(土) 13:30	札幌 アスティ45 4階ホール	14 高 校 59名	最優秀賞 沼 倉 篤 美 (有朋高等学校単位制課程1年次) 優 秀 賞 久 保 陽 子 (有朋高等学校単位制課程1年次) 努 力 賞 小 野 健太郎 (札幌藻岩高等学校1年) 荒 内 真 美 (浦幌高等学校1年) 大 塚 健 司 (白樺学園高等学校3年)	民謡のつどい 出演／佐々木真理子 (札幌東陵高3年) ほか 曲目 江差追分 石狩流れ節 たら釣節 ソーラン節 ほか
平6 (第9回)	2月18日(土) 13:00	札幌 アスティ45 4階ホール	14 高 校 48名	最優秀賞 竹 田 茂 人 (羅臼高等学校2年) 優 秀 賞 後 藤 優 美 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 努 力 賞 畑 山 陽 子 (大麻高等学校2年) 堀 川 亜 美 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 中 田 裕 子 (札幌商業高等学校1年)	民謡のつどい 出演／細川煌翠 ほか 曲目／江差追分 道南口説 千島女工節 ソーラン節
平7 (第10回)	2月10日(土) 13:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 33名	最優秀賞 千 葉 寛 子 (有朋高等学校単位制課程2年次) 優 秀 賞 砂 山 由起子 (釧路北陽高等学校1年) 努 力 賞 山 田 裕 明 (札幌商業高等学校1年) 高 橋 琢 磨 (根室高等学校1年) 中 川 治 (北海高等学校1年)	弾き語り 出演／明日香 曲目／ あなたに逢たいいよ ・北海盆歌・知床旅 情・思い出のグリー ングラス・あなたの こと感じている・夢 追い求めて
平8 (第11回)	2月1日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	12 高 校 76名	最優秀賞 菅 原 陽 介 (有朋高等学校単位制課程3年次) 優 秀 賞 市 原 惣之介 (札幌商業高等学校1年) 努 力 賞 川 村 吉 満 (羅臼高等学校1年) 砂 山 由起子 (釧路北陽高等学校2年) 菅 野 理 加 (釧路緑ヶ岡高等学校1年)	弾き語り 出演／明日香 曲目／ 花ぬすびと・夢をあ きらめないで・知床 &虹と雪のパラード ・夢追い求めて・ブ ルーララバイ
平9 (第12回)	1月31日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	14 高 校 60名	最優秀賞 高 橋 琢 磨 (根室高等学校3年) 優 秀 賞 武 田 裕 樹 (有朋高等学校単位制課程1年次) 努 力 賞 松 野 美 穂 (有朋高等学校単位制課程2年次) 廣 中 絵 美 (札幌龍谷学園高等学校3年) 西 谷 知 祐 (白樺学園高等学校3年)	トーク 出演／佐藤のりゆき 「21世紀こそ自立 人間を目指して」

年度	期日	場所	応募数	受賞者	アトラクション
平10 (第13回)	1月23日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	16 高 校 72名	最優秀賞 中 山 貴三也 (根室高等学校3年) 優 秀 賞 保 科 匡 (中標津農業高等学校1年) 努 力 賞 柳 達 典 (有朋高等学校単位制課程2年次) 渡 部 めぐみ (根室西高等学校3年) 山 川 貴 司 (白樺学園高等学校1年)	落語 出演／桂 枝光
平11 (第14回)	1月29日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 68名	最優秀賞 渡 辺 裕 美 (北海高等学校1年) 優 秀 賞 林 憲 生 (立命館大学慶祥高等学校2年) 努 力 賞 後 藤 瑞 朋 (根室高等学校1年) 西 美 菜 (釧路緑ヶ岡高等学校1年) 中 川 秀 規 (白樺学園高等学校2年) 佐々木 裕 美 (北見商業高等学校3年)	落語 出演／桂 枝光
平12 (第15回)	1月27日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 73名	最優秀賞 島 涼 子 (北海高等学校1年) 優 秀 賞 後 藤 瑞 朋 (根室高等学校2年) 努 力 賞 篠 原 このみ (有朋高等学校単位制課程1年次) 西 美 菜 (釧路緑ヶ岡高等学校2年) 吉 田 久美子 (白樺学園高等学校3年)	マジック 出演／友 たけし
平13 (第16回)	1月26日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	14 高 校 59名	最優秀賞 野 坂 将 吾 (北海高等学校1年) 優 秀 賞 篠 原 このみ (有朋高等学校単位制課程2年次) 努 力 賞 山 崎 善 晴 (北嶺高等学校3年) 近 藤 麻衣子 (立命館慶祥高等学校1年) 長谷川 志 保 (根室高等学校2年)	落語 出演／桂 枝光
平14 (第17回)	1月25日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 48名	最優秀賞 伊 藤 健 太 (札幌商業高等学校2年) 優 秀 賞 吉 田 千 紗 (函館白百合学園高等学校3年) 努 力 賞 黒 滝 千 織 (釧路緑ヶ岡高等学校2年) 高 橋 夢 子 (旭川藤女子高等学校1年) 横 山 友 姫 (北海高等学校1年)	三味線と和太鼓 出演／木村善幸
平15 (第18回)	1月24日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	16 高 校 64名	最優秀賞 高 橋 夢 子 (旭川藤女子高等学校2年) 優 秀 賞 金 子 智 美 (北海道有朋高等学校3年次) 黒 滝 千 織 (釧路緑ヶ岡高等学校3年) 努 力 賞 伊 藤 敏 恭 (札幌商業高等学校3年) 佐 藤 裕 子 (北海道根室高等学校3年) 橋 本 直 久 (旭川大学高等学校2年)	男性コーラス ダンディ フォー コンサート

年度	期日	場所	応募数	受賞者	アトラクション
平16 (第19回)	1月29日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	15 高 校 65名	最優秀賞 野 村 渡 (根室高等学校2年) 優 秀 賞 松 本 奈津美 (北海高等学校1年) 努 力 賞 橋 本 直 久 (旭川大学高等学校3年) 大 西 まどか (函館白百合学園高等学校1年) 西 山 千 尋 (北星学園女子高等学校3年)	男性コーラス ダンディ フォー コンサート
平17 (第20回)	1月21日(土) 12:30	札幌 アスティ45 4階ホール	16 高 校 49名	最優秀賞 渡 辺 のぞみ (旭川大学高等学校2年) 優 秀 賞 大 西 まどか (函館白百合学園高等学校2年) 努 力 賞 石 澤 翔 吾 (北海学園札幌高等学校1年) 戸 田 智 美 (北海高等学校1年) 能 登 竜 也 (北海道根室高等学校3年)	高校生が制作した北方 領土問題啓発番組発表 会
平18 (第21回)	1月20日(土) 12:30	札幌市 男女共同参 画センター ホール (札幌エル プラザ 3 階)	15 高 校 54名	最優秀賞 十 川 純 光 (旭川大学高等学校2年) 優 秀 賞 込 堂 さくら (帯広三条高等学校1年) 優 良 賞 鈴 木 薫 (武修館高等学校2年) 鈴 木 正太郎 (北海学園札幌高等学校2年) 阿 部 裕 樹 (立命館慶祥高等学校1年)	高校生による和楽器演 奏 ①札幌龍谷学園高等学 校(雅楽) ②とわの森三愛高等学 校(琴)
平19 (第22回)	1月19日(土) 12:30	札幌市教育 文化会館 小ホール	16 高 校 73名 (特別参加 1名)	最優秀賞 丸 山 友 梨 (函館白百合学園高等学校2年) 優 秀 賞 梅 澤 美 穂 (札幌旭丘高等学校1年次) 優 良 賞 加 藤 徹 也 (札幌月寒高等学校2年) 佐 藤 弘 之 (立命館慶祥高等学校1年) 佐 藤 未 来 (北海道根室高等学校3年)	高校生による演奏 札幌月寒高等学校 マンドリン部
平20 (第23回)	1月24日(土) 12:30	札幌市教育 文化会館 小ホール	18 高 校 63名	最優秀賞 小 林 百 絵 (函館白百合学園高等学校2年) 優 秀 賞 西 山 あかり (札幌月寒高等学校2年) 優 良 賞 ゲッツ羽愛禎杏 (札幌旭丘高等学校1年次) 渡 辺 ともみ (旭川大学高等学校1年次) 水 野 雄 太 (北海道札幌西高等学校)	女声コーラスマニコン サート 出演／ほほえみコーラ ス(根室市在住 のサークル)
平21 (第24回)	1月23日(土) 12:30	札幌市 男女共同参 画センター ホール (札幌エル プラザ 3 階)	19 高 校 120名	最優秀賞 木 村 優 美 (札幌月寒高等学校1年) 優 秀 賞 牧 野 裕 樹 (根室西高等学校1年) 優 良 賞 菊 地 千 琴 (帯広三条高等学校3年次) 西 畑 実 咲 (旭川大学高等学校2年) 高 橋 桃 子 (鹿追高等学校1年)	落語 出演／三遊亭金八
平22 (第25回)	1月22日(土) 12:30	札幌市 男女共同参 画センター ホール (札幌エル プラザ 3 階)	15 高 校 84名	最優秀賞 松 崎 あすか (根室西高等学校2年) 優 秀 賞 中 村 いのり (登別明日中等教育学校5回生) 優 良 賞 渡 部 綾 菜 (鹿追高等学校2年) 尾 張 棕 (立命館慶祥高等学校2年) 室 井 麻 佑 (中標津高等学校1年)	弦楽四重奏ミニコン サート 出演／アンサンブル・ シオン

12 第25回大会までの歴代審査員一覧

回 数 (大会日)	審査員長		審 査				
			外務省		報道機関		北海道
第 1 回 (62. 2. 14)	北大教授・スラブ 研究センター長	木村 汎	ロシア課 課 長	茂田 宏	N H K札幌 放送局長	村上 達彌	北方領土 対策本部長
第 2 回 (63. 2. 13)	教育長教育部長	安田 勲	ソビエト連邦課 地域調査官 総務庁北方対策 本部参事官補佐	末澤 昌二 柳本 昌門	北海道新聞 編集局次長	木梨 芳一	北方領土 対策本部長
第 3 回 (元. 2. 18)	北大教授・スラブ 研究センター教授	木村 汎	首席参事官	山中 誠	北海道新聞 編集局総務	木梨 芳一	北方領土 対策本部長
第 4 回 (2. 2. 17)	〃	〃	課長補佐	夏井 重雄	北海道新聞 編集委員	島田 昭七	北方領土対策 本部副本部長
第 5 回 (3. 2. 16)	〃	〃	課長補佐	野口 秀明	北海道新聞 社会部長	〃	〃
第 6 回 (4. 2. 15)	〃	〃	課長補佐	松崎 潔	北海道新聞 政治部長	田村 泰章	北方領土 対策本部長
第 7 回 (5. 2. 13)	〃	〃	課長補佐	小池 孝行	北海道新聞 政治部長	山本 研一	〃
第 8 回 (6. 2. 19)	北大教授・スラブ 研究センター教授	皆川 修吾	課長補佐	野口 秀明	〃	〃	〃
第 9 回 (7. 2. 18)	北方領土問題 懇話会副座長	沼倉 武志	企画室長	森泉 達士	北海道新聞 政治部次長	鎌形 敏雄	〃
第10回 (8. 2. 10)	〃	〃	N I S 支援室長	坂本 秀之	北海道新聞 政治部長	渡辺 藤男	北方領土対策 本部副本部長
第11回 (9. 2. 1)	〃	〃	欧亜局ロシア課 課長補佐	川端 一郎	北海道新聞 政治部長	村川 亘	北方領土 対策本部長
第12回 (10. 1. 31)	〃	〃	欧亜局N I S 支援室 首席事務官	八重樫永規	〃	〃	〃
第13回 (11. 1. 23)	〃	〃	欧亜局ロシア課 企画官	村松 昭和	北海道新聞 政治部次長	遠藤 雅之	〃
第14回 (12. 1. 29)	北大教授・スラブ 研究センター教授	皆川 修吾	欧亜局ロシア課 企画官	夏井 重雄	北海道新聞 政治部長	池田 清志	〃
第15回 (13. 1. 27)	〃	〃	—	—	〃	新蔵 博雅	〃
第16回 (14. 1. 26)	北大教授・スラブ 研究センター助教授	岩下 明裕	欧州局ロシア課 企画官	村松 昭和	〃	島影 均	〃
第17回 (15. 1. 25)	〃	〃	欧州局ロシア課 専門官	野口 秀明	北海道新聞 報道本部長	佐藤 正人	〃
第18回 (16. 1. 24)	北大教授・スラブ 研究センター教授	〃	欧州局 ロシア交流室長	内田 一彦	〃	高橋 雅博	〃
第19回 (17. 1. 29)	〃	〃	〃	〃	〃	山本 哲史	〃
第20回 (18. 1. 21)	〃	〃	欧州局 ロシア課企画官	渡邊 修介	〃	早坂 実	〃
第21回 (19. 1. 20)	〃	〃	〃	〃	〃	清野 佳明	〃
第22回 (20. 1. 19)	〃	荒井 信雄	〃	〃	北海道新聞報道本部 編集委員	鶴井 亨	〃
第23回 (21. 1. 24)	〃	〃	〃	山村 嘉宏	〃	〃	〃
第24回 (22. 1. 23)	〃	〃	〃	〃	北海道新聞編集局 次長兼報道本部長	吉岡 孝修	〃
第25回 (23. 1. 22)	高文連弁論専門部長 札幌旭丘高校長	宮浦 俊明	欧州局 ロシア課企画官	山村嘉宏	北海道新聞編集局 次長兼報道本部長	吉岡 孝修	北方領土 対策本部長

員						
	北海道教育委員会		高等学校		返還運動推進団体	
水野 博雄	教育部長	林 安俊	道高校長会副会長 真栄高校長	飯田 保穂	専務理事	松崎 計一
永井 努	—	—	北海道高等学校 文化連盟会長	本間 英吉	〃	〃
永井 努	教育部長	猪村 昌義	北海道高等学校 文化連盟会長	本間 栄吉	〃	〃
金光 孝生	生涯学習部 指導参事	赤部 仁利	高文連会長 丘珠高校長	丸山 恵敬	副会長	〃
東峰 千紘	〃	高坂 雄幸	〃	〃	〃	〃
中田 州哉	〃	福田 隆三	高文連会長 札幌北高校長	渡辺 誠三	〃	〃
〃	〃	〃	高文連弁論専門部長 札幌商業高校長	大竹不二男	〃	〃
佐藤 浩志	〃	藤枝 正道	〃	〃	専務理事	中田 州哉
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
稲見 善兵	〃	大澤 征次	〃	〃	副会長	〃
中井 和夫	〃	原山 勉	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐野 彰義	〃	遠藤 勲	高文連弁論専門部 事務局長	梁田 剛	〃	〃
上田 正幸	〃	〃	高文連弁論専門部長 札幌月寒高校長	中川 明弘	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	副会長 札幌女性団体 連絡協議会会長	中易 愛子
〃	〃	西田 豊	〃	丸尾 功一	〃	〃
梅田 奉三	生涯学習部 教育指導監	保坂 潤一	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	数馬田 敏	副会長	金光 孝生
原 高史	〃	小原 信夫	〃	〃	〃	水間 松美
〃	〃	諏江 康夫	〃	原田 守	札幌女性団体 連絡協議会会長 北方同盟副会長	藤田 本子
多羽田邦博	〃	太田 眞	〃	〃	北海道女性団体 連絡協議会会長	中田 和子
水口 博史	北海道教育庁 教育指導監	深澤 宗明	〃	太田 眞	札幌女性団体 連絡協議会会長	佐藤 和子
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
越前 雅裕	〃	村田 政孝	〃	玉利 和弘	〃	〃
越前 雅裕	北海道教育庁 教育指導監	村田 政孝	北大スラブ研究 センター教授	岩下 明裕	札幌女性団体 連絡協議会会長	佐藤和子

13 弁 論 記 録

1. 審 査 講 評

2. 入賞者弁論文集

1 審査講評

審査員長 宮 浦 俊 明



14名の発表者と1名の基準弁論者の皆さん、今日はお疲れ様でした。

私は高校の弁論専門部の部長をしていますが、この北方領土の弁論大会には初めて参加させていただきました。

今日の15名の弁論は私にとってあっという間に終わりました。本当に素晴らしい弁論であって、高校生がここまで考えているのかという驚きと感動でした。

自分のそれぞれの問題意識の中からいろんな、これからの未来に向かってどうあるべきかという、そして国と国との話の問題です。大変難しいテーマですが、その大変難しい問題に挑戦した勇氣に敬意を表したいと思います。

また、この弁論大会に向けて一つ一つ発表する生徒を指導し、ここまで来られた顧問の先生には本当に感謝申し上げます。

全体的には審査の先生方からいろいろなお話しがありました。これからのことを考えますともっともっと意欲というか情熱をぶつけて欲しい、いろいろな独創的なお話しも出ていましたが、もっと具体的に展開して欲しいという意見が出ておりました。

それにしても、この弁論の発表がこれからの日本としての、そしてロシアとの関係の中で非常に大きな力になっていくだろうと、私は高校の教員ですので高校生の国際交流でいろんな国と交流していますが、いつも感じるのは「高校生っていうのはすごい」、交流の中であっという間に国境をなくして手を取り合って喜び哀しみを共にするという、今日も弁論にあったように帰るときには涙が出そうになるという、そういう高校生らしい感性がこれからの新しい時代を切り開く大きな力になると思いました。

本当に今日のご苦労様でした。



2 大会入賞者弁論内容

演 題 「北方領土について考えること」

最優秀賞

外務大臣賞

北海道根室西高等学校 2 年

松 崎 あすか



「北方領土問題を多くの方に伝える情報発信者に是非なってください。」これは、北方領土問題の啓発活動の最後に必ず呼びかける言葉です。

今でこそ、多くの人に北方領土問題を伝えたい一心でさまざまな活動に取り組んでいますが、最初の私は、根室に住んでいながらこの問題にあまり関心がありませんでした。

ですから、小学校の授業などで北方領土の勉強をしても、元島民の方から体験談を聞いても、「大変だったんだなあ。」というくらいの認識しかありませんでした。

しかし、中学校で教わった第二次世界大戦のことをきっかけに、「なぜ、ロシアは日本がポツダム宣言をした後に北方領土へ侵攻してきたのだろう。」「六十年以上経過しているのに、なぜ解決しないのだろう。」と疑問を感じ、少しずつ関心を持つようになっていったのです。

そんな、わずかに芽生えた関心が大きくなり、この問題を一日も早く解決したいという気持ちにさせてくれたものがあります。

それは、友人に誘われて入会した「北方領土研究会」での活動です。

入会以来、私は会員とともに北方領土返還に向けて、何をすべきなのかを真剣に考えました。

そのような時に私たちの研究会へある依頼がありました。それは、根室市が取り組んでいる「北方領土返還要求キャラバン隊」の隊員としての協力のお話でした。

まず、この「北方領土返還要求キャラバン隊」とは、全国各地を訪問し、北方領土についてのパネル展や、パンフレットの配布、そして、返還に向けての署名活動を実施して、北方領土への意識を高めることを目的としています。

領土問題に対する意識が薄らぎ、問題発生から六十五年が経過してしまっていること。そして、開催地が根室から遠く離れた広島県ということもあり、私は広島の方々にこのことを知ってもらうためにはどのような工夫が必要だろうかといろいろ考え、大きな地図を指さして北方領土の位置や生息している動植物の紹介、私たちの住んでいる根室市からこ

んなにも近い距離に見えるのだということを説明するとともに、これまでの歴史的経緯などを来場者の方々に紹介してきました。

最初は、どのくらいの方が北方領土のことを知っているのだろうか。また、どのくらいのことを理解してもらえるのだろうかと非常に不安でした。

しかし、来場して下さった多くの方々は、みな熱心にパネルを見たり、私の説明を真剣に聞いてくださいました。

そして、「こんな近くに島が見えるんだね。」や「二月七日が『北方領土の日』とは知らなかった。教えてくれてどうもありがとう。」などの感想をたくさんいただきました。

この経験を通して感じたことがあります。

それは、この問題を知らない方がまだまだ大勢いるということです。

では、それをどのように打開していくのか。それはこのような活動を通じて北方領土問題を多くの方に伝える情報発信者を増やしていくと同時に、積極的な発信を働きかけていくことです。一部の人ががんばったとしても、それには限りがあります。だからといって、そこで情報の発信をやめてしまえば、この問題は風化してしまうに違いありません。

私は、全道全国各地に情報発信するのはもちろん、新たな情報発信者と共に協力して、さらなる情報発信をしていきたいです。

また、もう一つ大切なことがあると考えます。それは、同世代間のつながりを今以上に強固なものにしていかなければならないと思うのです。

ここであるデータを紹介します。それは、根室市民を対象に、北方領土返還運動への参加の有無をまとめたアンケート結果です。

それによると、「参加したくない」と答えた人のうち、三十代から七十代の人では多くても三割弱だったのに対し、十代・二十代では五割以上というものでした。

特に、私たちを含む若者世代の理由の八割以上が「関心がない」「返還運動をしても効果が感じられない」を占めていたことには非常にショックを受けました。

元島民の方々の平均年齢が七十七歳となり、中には健康上の問題を理由にやむを得ず参加できない方もいます。

この現状を踏まえ、今こそ私たちの世代が返還活動の中心となっている方々と手を取り合って返還へのさらなる気運を高めていかなければならないのです。

私は、北方領土についての今以上の返還意識の高揚、国内世論の拡大を目指し、情報発信者の一人として絶え間ない情報の発信と発信者の増大を目指していきます。

最後にお願ひです。「北方領土問題を多くの方に伝える情報発信者に是非なってください。」ご静聴ありがとうございました。

優 秀 賞

北海道知事賞

北海道登別明日中等教育学校 5 回生

中 村 いのり



私は北海道に住んでいます。

豊かな自然や豊富な食糧がたくさんあり、これ以上ない素晴らしい土地だと思っています。

では私は、ごくごく身近なところで起こっている「北方領土問題」について一体どれだけのことを知っているだろうか。

私は昨年八月に参加したビザなし交流でいかに自分の知識・関心が足りなかったのかを身をもって思い知らされました。

私が滞在した国後島は豊かな自然に囲まれたとても素晴らしい場所でした。初めて食べるロシア料理、初めて聞くロシア語、それは私にとって何もかもが新鮮で胸が高鳴りました。そして私が最も強く感じたこと、それは「もう、この島にはこの暮らしがある」ということでした。かつてここは日本の領土であったという面影など全くなき、ただただ聞き慣れないロシア語が耳に入ってくる…そこはもう、ロシアでした。

しかし私は夕食に招待して下さったロシア人の家族ととても楽しい時間を共有することができました。初めは、言葉が通じずに戸惑っていた私も、だんだん相手の言うこと、伝えようとしていることもわかり、会話もはずみました。それどころか日本語の勉強をして一生懸命、私に話しかけてくれる場面も度々ありました。そして自分はどうしてもっとロシア語を勉強してこなかったのか、十分に時間はあったはずなのに…と後悔することもありました。

しかし一緒に過ごした楽しい時間に、ロシア人と日本人という違い、言葉の違い、そして「北方領土問題」という壁など全く存在していませんでした。

そして北海道へ帰ってきてから、北方領土問題に関する歴史やテレビ番組を見て調べてみました。その中でも元島民の方々の声が強く印象に残りました。

「もう私達に時間はない。できるだけ早く北方領土を返してほしい。」

そんな願いを聞いて、私はどうすることが一番良い解決策なのか正直わからなくなりました。

私が見た国後島は確かに自然豊かで、漁業も盛んに行われている素晴らしい土地でした。しかし、今、元島民の方々の平均年齢は七十七歳になっています。そのことを考えると、舗装がされていない道路、車が通るだけで砂ぼこりが立ち上がり、前が見えない…そんなまだまだ発展途上の島に、お年寄りが住み、一からその島をつくっていくこと

ができるのだろうか。もし北方領土が返還されれば、一体そこには誰が住み、開発していくのだろうか。そこに暮らすロシア人、子供達は一体どうなってしまうのだろうか。

北方四島は日本固有の領土であり、できることなら全て返してほしいと願う。しかし、ロシア人を島から追い出してしまうということは、かつて日本がされたことをただ繰り返すだけであって、意味のないことだと思います。

そこで私は、北方領土をロシア人も日本人も両国の人々が住むことの可能な友好の土地にすれば良いと思います。かつてのロシアも日本もその時代背景がそれぞれあって今のような現状がある。そして、今の「北方領土」というものを私は、ロシアと日本をつなぐ架け橋であるのではないかと思います。

例えば、北方領土に日本人の高校生や大学生も通うことができる学校をつくり、ロシア人学生と共に勉強したり交流したりするのです。その学校は、ロシア語も日本語も学べる学校でだんだんと生徒間の会話が増えていき、にぎやかな学校になっていく。そしてお互いの国や歴史を知り合うことで理解を深め友好関係を築いていく。そんなふうにして両国の若者が北方領土問題を解決に導いていくことができれば良いと思います。もちろん私もその中の一人であって、ロシア語を一生懸命勉強し、自分の伝えたいことや思っていることをロシア人学生と交換するのです。

今、この問題を引き継ぎ考えていかなければならないのは私たち若者です。今の世の中、英語が大切だとか、もっと他国に目を向けなければいけないだとか言われています。しかし私たち日本人は自分の国で起こっている問題をどれだけ知り、関心を持とうとしているのだろうか。少なくとも北海道に住んでいる人は、もっと知ろうとして下さい。本当に身近なところで起こっている「北方領土」のことを。

私はきっと、ビザなし交流に参加する機会がなければこんなにこの問題について考えようとするもしなかったでしょう。そして私もまた、この問題が解決する日を願い、決してこの問題を忘れることなく、これからもこの北海道で生活していきたいと思います。

優良賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

北海道鹿追高等学校2年

渡部綾菜



「現在の総理大臣のフルネームを書きなさい」中学生のときに出された問題。「アメリカの大統領の名前を書きなさい」これは2年前社会の問題に出されたものです。「名字だけならわかる。」「漢字がわからない」と、周りで言っている私の同級生たち。そして、その中の一人の私。自分たちの国の総理大臣や日本にとって重要な国の大統領の名前も出てこない。では、ロシアの大統領の名前を知っている中高生はどれくらいいるのでしょうか？ ほとんど

の人は名前も出てこないでしょう。アメリカの大統領は日本でも大きく取り上げられ、フルネームまでもいえなくても、「オバマ」位は出てきますよね？ですが、ロシアのことになる中々ニュースで目にする事はありません。なので知っている人も少ないのではないかと思います。ですが昨年、新聞でロシアの大統領「メドベージェフ」の名前をよく見かけるようになりました。彼の名前が紙面を飛びかっている理由。それは、大統領として初めて北方領土を訪れたからです。私は、大統領が訪問することによって、北方領土がロシアの国とはっきり示されたような気分でした。この行動は元島民の方をどれだけ怒らせ、落胆させたのでしょうか？ ふるさとを奪われた元島民の方の気持ちを逆立てるようなものです。

ですがその怒りは遅々として進まない領土交渉に対する日本政府への怒り・落胆でもあるのではないのでしょうか？ 北海道に住む私たちにとっては大きな問題ですが、道外ではこの問題はどれほど深刻に受け止められているのでしょうか？

実は私もそれほど強く言えるものではないのです。

私が北方領土に興味を持ったのは、一枚の写真がきっかけでした。それは、昨年北方領土を訪れた友達から見せてもらった図書館の本の写真。私が昨年訪れたカナダでも見た事がある表紙と似ていて、もしやっと思って調べてみると、その本は「ガリー ポーティエル」つまり「ハリーポッター」だったのです。私が大好きな本。それがロシアでも読まれている。何か親近感が湧いてきたのですが、実際私たちはロシアをどうとらえているのでしょうか。

「イクラ」はロシア語だというのは有名です。マトリョーシカも有名ですが、一家に一つというものではありません。ピロシキはおいしいけれどカレーパンには負けてしまっています。

恥ずかしながら私のロシアへの興味はそんなものでした。でも友だちから聞いた、国後島の話や元島民の方の話は、私ののんきな想像を吹き飛ばしました。8月15日以降にロシアが北方領土に侵攻してきたこと。島民の方々が命を賭けて脱出したこと。そうできなかった人々は樺太の強制収容所に送られ、そこで地獄のような日々を過ごし、引き上げてきたこと。現在の国後島ではロシアの生活がどんどん根付いてきていること。友達の話は、何にも知らなかった私を大きく揺さぶりました。北海道にしながら何にも知らなかった自分。はずかしくなると同時に、私はその友人を羨ましいとも思うようになったのです。もちろん普通の高校生では経験できないことをしたことに対してもそうです。でももっと羨ましかったのは、自分の言葉で北方領土問題を語る友。さらに同じ高校生が北方領土の事を弁論を通して語れる機会があった事でした・・・。

私たちが北方領土返還を訴えるのは正当な主張です。ロシア政府を動かすには相当な覚悟と知恵の結集が必要です。そのためにはまず日本国内での返還運動をもっと盛り上げなくてはならないと思います。私はまずその一歩として、この弁論大会をもっと多くの聴衆に聞いてもらえるようにするべきだと思うのです！そうすることで世論を動かし、政治家たちに私たちの声を届けるのです。それが北方領土の返還につながるはずです。北海道だけでの弁論大会ではもったいないのです！

国体のように毎年各都道府県を回って開催するのはどうでしょう。この弁論大会をきっかけに北海道から沖縄まで一体となって北方領土のことを考えようではありませんか！

そして社会のテストに、「返還された北方領土を訪問した初めての日本の総理大臣はいったい誰でしょうか？」という問題が早く出されることを願うのです。

優良賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

立命館慶祥高等学校2年

尾張 棕



「テレビに出たい！！」

記者会見という4文字に心跳ね上がる。込み上げるわくわくを声に出していました。今年の夏、ビザなし交流で国後島を訪問することになった私。弁論でうそをつきたくないので、堂々と宣言します。私はテレビに出たい気持ちと、普通じゃ行けないところに行ける！そんな期待感だけで訪問に参加しました。30人近くの参加者の中で記者会見に選ばれるのはたったの2,3人。「選ばれる

ためには目立つことが大切だ」というアドバイスをもらい、いざ国後島へ。

そもそも北方領土問題は1855年日露通好条約により択捉島とウルップ島の間で日本とロシアの境界線が引かれたはずです。しかしこの島の光景は全く日本とは違うものでした。道路は整備されていない砂利道が続く。大きなビルもなければ、公園も、街灯も見あたらない。私は改めて、この事実を認識したのです。国後島はロシアに占拠されているんだ。

プログラムのひとつで訪れた古釜布日本人墓地。ここには、以前この島に住んでいた日本人が眠っています。ひっそりとした風景の中に、両手で数えられるくらいのお墓がありました。簡単にではありながらも、手入れがされていた。これはロシア人が定期的に手入れを行ってくれているそうです。お墓に線香を差すと香る独特のにおい。手を合わせたとき、確かにこの島に日本人が住んでいたことを、改めて感じました。国後島に日本人のお墓があるという事実さえ、知らなかった私。島の生活や、置かれている状況、歴史などを学ばず、ここに来た自分を責めていました。

道庁の玄関に意気揚々と掲げてある「信頼と平和を築く四島返還」の文字。みなさんも一度は見たことがあるのではないかと思います。圧倒的な存在感を示すその文字を下から見つめていた私。しかし、そこを通る人々はその文字を素通りしていきます。大人も私たち高校生も。さらに、私の先輩の話では、福岡の博多駅にも北方領土返還の標語が大きく書かれていたといいます。私たちはそれらの言葉に対して、何も感じないままでいいのでしょうか。それらを単なる日常の一コマで終わらせてはいけません。私はそう思います。

そこで、私が提案するのは北方領土問題の紙芝居をつくることです。私も保育園の頃、たくさんの紙芝居を読んでもらい、自分でつくるほど熱中したのを覚えています。そう、

子ども達に大きな影響を与える紙芝居で、小さい頃から領土問題をわかりやすく学ぶことが必要だと思います。そしてもし可能であれば、その紙芝居を元島民の方に読んで頂くことで、子ども達に伝わるものもよりいっそう強くなるのではないのでしょうか。領土問題に取り組んでいる方がご高齢になられていく中で、小さな子どもへの働きかけが求められています。問題解決への炎を燃やし続けるために。

日本とロシアの子どもが混ざったチームで対戦する親善リレー。みんなが笑顔で、充実した交流になりました。参加した人はよく「私たちの間にいざこざは関係なかったよね」と言います。しかしそれは当たり前のことではないのでしょうか。私たちが接した小学生が「そもそも北方領土の問題とは1855年の日露通好条約から…」なんて語り始めたら、それこそ不気味です。ではどうすればよいのか。私は原点に返ることを提案します。ある一点だけを見つめる、小さな視点で歴史を見るのではなく、より広く深い視点で歴史を見直すことが求められているのではないのでしょうか。歴史の一部分だけを見ていても意味はない。もっとその奥まで歴史をひもといてみる必要があります。

たくさん質問をしたおかげか、私は記者会見のメンバーに選ばれることが出来ました。結局そこにはテレビカメラは1台もありませんでしたが、もうそんなことは関係ない。帰り際に手を振りながらロシア人は言いました。「マタアイマショー」。その日が来るためにも、私は今、この小さな体をめいっぱい伸ばし、歴史を上から見つめていきます。そして出来ることなら、紙芝居の最後はみんなが笑顔で、この言葉で締めたいと思います。「めでたしめでたし」と。

優良賞

北方領土復帰期成同盟会長賞

北海道中標津高等学校 1 年

室井 麻 佑



皆さんは北方領土についてどのようなイメージを持っているでしょうか。暗い、怖い、ずるい、領土問題、近いようで遠い島……。クラスの友達からは、このような答えが返ってきました。確かにニュースや新聞などで得られる情報は、こういったマイナスのものばかりかも知れません。

しかし、私の北方領土に対するイメージはマイナスのものではありません。私の出身地の標津町では海岸から国後島が見えます。

このような近い地域に住んでいるので、幼い頃からビザ無し交流の受け入れや総合的な学習などで北方領土について知る機会が多くあったからです。ですが、このような経験がない人は先ほど述べたようなイメージを持ってしまうのかもしれません。皆さんは北方領土の日があるということをご存じでしょうか。私の友人でもこれを知っている人はほとんどいませんでした。このように、最近では北方領土問題に対する意識が薄らいでいるようにも感じます。

私は昨年 8 月に国後島を訪問しました。3 泊 4 日の訪問で多くの貴重な体験や新たな発見がありました。なかでも一番驚いたことは現地の人たちが日本について知ろう、学ぼうとしていることです。島ではたくさんの方が私たち日本人に向かって「こんにちは」と話しかけてくれました。また、小さな子どものうちから日本語を勉強し、簡単な日本語の絵本を読める子もいると聞いた時は愕然としました。私は北方領土の近くに住んでいるにも関わらず、ロシア語の勉強をしたことがありませんし、もちろんロシア語の本を読むこともできません。北方領土の人たちは日本について勉強し、わかり合おうとしているのに…と考えると、互いを理解しようとする姿勢の違いに情けない気持ちになりました。

私はこの訪問のなかで最も心に残っていることがあります。それは同年代の子たちと学校生活や将来の夢について話し合う意見交流会です。実際の島での生活の様子や同年代の子たちの意見を聞き、とても勉強になりました。互いの言語がわからず、通訳の方なしではコミュニケーションに苦労しましたが、英語とジェスチャーを使い伝え合うことができました。このことから互いにより一層英語の学習に力を入れるべきだと感じました。そうすればさらに交流ができ、互いの理解を深めることができるからです。

私は今回の経験から、友人たちが持っているようなイメージと本当の北方領土の姿は

異なっていることがわかりました。このことから何事も先入観に左右されず実際に身をもって体験することが大切なのだと学びました。私は北方領土問題において互いに理解し合うことが大切だと考えます。私たち日本人とロシア人島民の間には知らないことが多すぎると感じます。インターネットやニュースに載っているような知識を得るのではなく、実際に島に住む人々と交流を持つことで互いを知り理解し合うことが必要なのではないでしょうか。

交流の方法の一つとして、日本の学校と北方領土の学校の生徒同士が授業などで、英語を使って手紙の交換をするのはどうでしょうか。その手紙の内容は、ロシア人の〇〇君は先週いたずらをして先生に怒られたとか、日本人の〇〇さんは先週にバーベキューをしたというような日常的なことでも構いません。そうした日常の姿を知ることで、互いが持つ間違った印象、偏見、先入観は解消へと向かうと考えます。また、そうすることで両国の人々の北方領土への関心が高まると思います。

私自身北方領土を訪問したことで、先ほど述べたような問題意識を持ち、解決策を考えることができました。実はこのことこそ北方領土問題において私たち日本人に求められている姿勢なのかもしれません。また、私の身の周りでも起きているように、相手に対して間違った見方や勘違いをしていることが問題解決の妨げになっている場合があります。私はそれを解消するには相手に対する理解を深めることが重要だと考えました。しかし、国と国との間には言語の壁があり、それが互いの理解を阻むという事実があります。そのため私はこれからたくさんの言語を学び、その壁を壊す通訳になりたいです。

最後に、これから私が北方領土問題解決のためにできることを考えました。一つ目は、毎年地元で行われるビザ無し交流の受入への参加を続けること。もう一つは、私が実際に北方領土へ行って体験したこと、感じたことを多くの人に伝えることです。こうした活動が問題解決に繋がると信じ、行動を続けていきます。

弁論発表者14名及び基準弁論1名

最優秀賞
根室西高等学校
松崎あすかさん



優秀賞
登別明日中等教育学校
中村いのりさん



優良賞
鹿追高等学校
渡部 綾菜さん



優良賞
立命館慶祥高等学校
尾張 棕さん



優良賞
中標津高等学校
室井 麻佑さん



札幌旭丘高等学校
羽山由衣菜さん



武修館高等学校
大建 千浩さん



北海学園札幌高等学校
畠山 美保さん



札幌月寒高等学校
中谷 麻瑚さん



釧路明輝高等学校
金丸安里紗さん



北海高等学校
濱田 康太さん



中標津農業高等学校
清原 優威さん



旭川大学高等学校
玉井 沙英さん



根室高等学校
木村 智美さん



基準弁論
武修館高等学校
渋谷 侑希さん

開 会

主催者挨拶



(社)北方領土復帰期成同盟
会 長 堀 達 也



司会
中村 泉



武修館高等学校へ
外務大臣感謝状贈呈



北海高等学校へ
北方同盟会長感謝状贈呈

審査員会



宮浦審査員長



審査員室における協議



審査員室における協議



審査員室における協議

審査講評



宮浦審査員長による審査講評



宮浦審査員長による審査講評



最優秀賞



優秀賞



優良賞



優良賞



優良賞



大会発表者と審査員による記念写真

第2部 ミニコンサート



アンサンブル・シオンによる弦楽四重奏



アンサンブル・シオンによる弦楽四重奏

会場



会場 札幌エルプラザ



受付 (3Fホール)



受付 (3Fホール)



観客席



署名コーナー (3Fホール)

15 平成22年度総理表敬訪問

.....(平成23年 3 月11日)

1 訪問の目的

“北方領土を考える” 高校生弁論大会の最優秀賞及び優秀賞受賞者による内閣総理大臣表敬訪問を行い、内閣総理大臣から激励をいただき今後の大きな励みとする。また、当弁論大会実施への啓発・推進に寄与する。

2 訪問先

☆伴野外務副大臣

☆横路衆議院議長

☆国会議事堂見学

※ 総理官邸で予定していた総理大臣並びに内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）への表敬訪問については、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により中止となりました。

3 訪問者

○ 松 崎 あすか（北海道根室西高等学校2年）

○ 中 村 いのり（北海道登別明日中等教育学校5回生）

《引率者》 松 尾 幸 広（北海道根室西高等学校教頭）

影 山 吉 則（北海道登別明日中等教育学校教頭）

《同行者》 石 部 彰 （社北方領土復帰期成同盟専門員）

4 訪問概要

東北地方太平洋沖地震の発生によりご多忙の中、外務省ロシア課のご尽力、伴野副大臣を始めとする関係者の皆様のご配慮により、伴野外務副大臣への表敬訪問が実現いたしました。

伴野副大臣からは、二人の弁論について感想頂き、更に今後の活動などに対して激励の言葉を頂きました。

また、当日は横路衆議院議長を議長公邸に訪問させていただき、北方四島のお話や二人の弁論について懇談し、激励のお言葉を頂きました。また、横路議長のご配慮により公邸長のご案内で公邸内を見学させていただきました。更に国会職員のご案内で国会議事堂内も見学させていただきました。

なお、総理官邸における総理大臣並びに内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）への表敬訪問は、当日発生した東北地方太平洋沖地震のため残念ながら中止となりました。



衆議院議長公邸応接室にて

伴野外務副大臣表敬訪問

外務副大臣応接室にて



外務副大臣応接室にて
伴野副大臣と懇談する
受賞者



外務副大臣応接室にて
(左から中村いのりさん、
伴野外務副大臣、
松崎あすかさん)



外務副大臣応接室にて
(左から根室西高松尾教頭、
登別明日中等教育学校
中村いのりさん、
伴野外務副大臣、根室西高
松崎あすかさん、登別明日
中等教育学校影山教頭)

横路衆議院議長表敬訪問

衆議院議長公邸にて



中国政府から
衆議院議長に寄贈された
絵画「紅梅香遠」前にて

国会議事堂見学



衆議院本会議場にて



衆議院予算委員長室にて

“北方領土を考える” 高校生弁論大会最優秀・優秀賞受賞者
「総理大臣表敬訪問」 年度別調査表

	表敬訪問日	内 閣 総 理 大 臣		外 務 大 臣		備考
第1回	62. 3. 2	中曽根総理大臣	総 理 官 邸	倉 成 大 臣	大臣応接室	
第2回	63. 3. 22	竹下総理大臣	総 理 官 邸	宇 野 大 臣	大臣応接室	
第3回	元. 3. 15	竹下総理大臣	総 理 官 邸	宇 野 大 臣	大臣応接室	
第4回	2. 3. 22	海部総理大臣	総 理 官 邸	中 山 大 臣	大臣応接室	
第5回	3. 3. 22	海部総理大臣	総 理 官 邸	鈴木政務次官	政務次官室	大臣訪米 中のため
第6回	4. 3. 17	加藤官房長官	大 臣 室	兵藤欧亜局長	欧亜局長室	参議院集 中審議の ため
第7回	5. 3. 23	宮澤総理大臣	大 臣 室	柿澤政務次官	政務次官室	大臣病氣 静養のた め
第8回	6. 3. 30	細川総理大臣	大 臣 室	東 政 務 次 官	政務次官室	大臣政務 繁忙のた め
第9回	7. 3. 29	村山総理大臣	大 臣 室	柳沢政務次官	政務次官室	大臣政務 繁忙のた め
第10回	8. 3. 25	橋本総理大臣	総 理 官 邸	浦部欧亜局長	欧亜局長室	
第11回	9. 4. 1	橋本総理大臣	総 理 官 邸	浦部欧亜局長	欧亜局長室	外国要人 来訪のた め
第12回	10. 4. 1	村岡官房長官	総 理 官 邸	柳井事務次官	事務次官室	
第13回	11. 4. 2	小渕総理大臣	総 理 官 邸	武見政務次官	政務次官室	渡欧前日 のため
第14回	12. 3. 31	小渕総理大臣	総 理 官 邸	山本政務次官	政務次官室	
第15回	13. 3. 14	森 総 理 大 臣	総 理 官 邸	衛 藤 副 大 臣	副 大 臣 室	
第16回	14. 3. 13	小泉総理大臣	総 理 官 邸	植 竹 副 大 臣	副 大 臣 室	
第17回	15. 3. 11	小泉総理大臣	総 理 官 邸	土 屋 政 務 官	外務政務官室	
第18回	16. 3. 15・16	小泉総理大臣	総 理 官 邸	逢 沢 副 大 臣	副 大 臣 室	
第19回	17. 3. 8	小泉総理大臣	総 理 官 邸	町村外務大臣	大臣応接室	
第20回	18. 3. 9	小泉総理大臣	総 理 官 邸	麻生外務大臣	大臣応接室	
第21回	19. 3. 12	安倍総理大臣	総 理 官 邸	麻生外務大臣	参院外務省控室	外務大臣 3/13
第22回	20. 3. 3	福田総理大臣	総 理 官 邸	小野寺外務副大臣	外務副大臣室	
第23回	21. 3. 11	麻生総理大臣	総 理 官 邸	中曽根外務大臣	大臣応接室	
第24回	22. 3. 23	鳩山総理大臣	総 理 官 邸	前原内閣府特命担当大臣	副大臣応接室	
第25回	23. 3. 11		総 理 官 邸	伴野外務副大臣	副大臣応接室	大規模地 震対応の ため

16 平成23年度 第26回 ～北方領土を考える～ 高校生弁論大会【募 集 概 要】

1 開催日時

平成24年 1 月21日(土)12：30より

2 会 場

札幌市男女共同参画センター・ホール
札幌市北区北 8 条西 3 丁目 札幌エルプラザ 3 階

3 主 催

社団法人 北方領土復帰期成同盟

4 募集要領

(1)応募資格

道内の高等学校に在学する生徒とします。

但し、過去の本大会において最優秀賞及び優秀賞の受賞者を除く。

(2)応募内容

・主題は、「北方領土について考えること」とします。

・演題は、自由とします。応募者各自が設定してください。

・内容は、我が国固有の領土である択捉島、国後島、色丹島および歯舞群島の北方領土問題について高校生としての考えをまとめて記述してください。

(3)応募原稿

・応募は一人 1 編、400字詰縦書き原稿用紙 5 枚（2,000字）以内とし、発表大会において 7 分以内で発表できる文章としてください。

(4)応募期限

平成23年11月 4 日(金) ※当日消印有効

(5)応募先 〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 2-5
明治安田生命札幌北一条東ビル 7 階
社団法人 北方領土復帰期成同盟

5 表 彰

(1)上位 5 名を入賞とし、最優秀賞（外務大臣賞）、優秀賞（北海道知事賞）各 1 名及び優良賞（北方領土復帰期成同盟会長賞） 3 名を決定します。

(2)入賞者に賞状及びトロフィー、大会発表者全員に記念品を贈ります。
なお、応募者全員にも記念品を贈ります。

(3)最優秀賞及び優秀賞受賞者には「総理大臣表敬訪問」を実施します。

◎たくさんの高校生の応募をお待ちします。

◎募集の詳細は、7 月に各高等学校宛にお届けする予定です。

◎お問い合わせ等の連絡は次のとおりです。

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 2-5
明治安田生命札幌北一条東ビル 7 階
T E L 011-205-6500
F A X 011-205-6501
(メールアドレス) hoppou-d@isis.ocn.ne.jp

2011(平成22年度)第25回“北方領土を考える”高校生弁論大会記録集

発行 平成23年 3 月

編集 社団法人 北方領土復帰期成同盟

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 2 番 5

明治安田生命札幌北一条東ビル 7 階

T E L (011) 205—6500

F A X (011) 205—6501

※ e-m ail hoppou-d@ isis.ocn.ne.jp

※ U R L [http ://w ww .hoppou-d.or.jp](http://www.hoppou-d.or.jp)



北方領土返還運動のシンボル花

『千島桜』



国民の 声と熱意で 四島(しま)返還

(平成22年度 北方領土に関する標語最優秀作品)